

橿原市今井町、歴史的建造物が数多く残るこの場所で、空き町家、生活広場、公共施設の計8会場を舞台に、現代美術作家7組9名の展覧会を開催します。

はならあと2020、キュレーター企画である「そして、それはいつか土へと」は、“素材”というキーワードからはじまりました。今企画において、出展作家9名の作品の主体となるのは、自然から生まれ、いつか地球へ還る素材です。作家が作品を制作する上でこの素材となる物質、制作過程について考察することで、環境問題への関わりを提議します。

出展作家9名の表現は、彫刻、水彩、写真、インスタレーションと多岐に渡りますが、人間のあり方、社会と人の関係性、人類を主体として提示する彼らの作品がどのように環境に相互作用していくのか、素材となる物質を出発点とした時に作家にとってどのような意味をもたらすのかを議論していきます。それは単なる材料でなく、いわば、生きているモノ、あるいは、生きていたモノであるからです。

美術作品の体となる素材、その物質はどのように生まれ、どのように作品へと姿を変え、そしてどこへ行き着くのか。地球環境と人間の関係性が変化しつつある時代にあって、美術作品という、本来作家が生み出し、そこで完結すべきものの行く末を見つめることにより、美術を通して古くから続いてきた環境と人間との関係を再考察する一点となることを期待します。

We are delighted to hold an exhibition with nine contemporary artists from seven groups at eight venues including traditional Japanese residences, public spaces and facilities in Imai-cho, Kashihara City, a historical town.

Hanarart 2020 curator project “And, that will become soil” started with the keyword “medium”. The stem of the artists’ works in this project are based on “medium” from nature that will return to the earth someday. Through the selection of materials and the creation process, this exhibition aims to reveal various environmental issues.

The works cover a wide range of expression such as sculpture, painting, photography, and installation while they are all based on human beings, along with the relationship between society and humanity; their works present humanity as the subject that interact with the environment, they also signify creations of the medium they are using. This is because those are not just merely a “medium”, but, all in all, living things or things once alive.

How are medium modeling the form of art, how are they transformed to artworks, and where do they end up? In an era in which the relationship between human and the global environment is ever changing, we hope that, by looking at the future of artworks used to be created and completed all by artists, art will become a factor in the reconsideration of the traditional relationship between human and the environment.

キュレーター：
内田千恵 | Chie Uchida

1984年大阪府生まれ、奈良県在住。日仏現代美術団体 Art 7ten (アールセッテン) 運営。大阪芸術大学卒業。ロンドンメトロポリタン大学院アートマネジメント専攻修了。帰国後、コマースギャラリーで8年間勤務。フランスのアートシーンをリサーチするため現地に1年間滞在。現在は、奈良県北葛城郡に移住し、日仏の若手美術家を紹介するべく活動している。

<https://hanarart.jp/2020/>

主催：奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会、奈良県
協力：今井町町並み保存会
助成：公益財団法人朝日新聞文化財団

問い合わせ：
奈良・町家の芸術祭 HANARART 実行委員会 事務局
〒630-8114
奈良県奈良市芝辻町2丁目6-14 maruroom内
TEL:090-9215-6847 MAIL:info@hanarart.jp

デザイン：小池 一馬



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

キュレーター：
内田千恵

出展作家：
牛島 光太郎
黒川 岳
たかはし なつき
野村 由香
山本 聖子
川野 直紀 + 柳澤 景子
宮坂 直樹 + アンヌ＝シャーロット・イヴェール

地域団体：
今井町町並み保存会

2020年
10月23日(金) - 10月26日(月)
10月30日(金) - 11月3日(火・祝)
11月6日(金) - 11月9日(月)
10:00-17:00

入場：有料(大人600円、学生300円、中学生以下無料)
インフォメーションでチケット代わりとなるオリジナルマスクをご購入ください。

奈良・町家の芸術祭
はならあと

今後の新型コロナウイルス感染症の拡大やその他の状況により、イベントを中止、または内容を変更する場合があります。

手指が触れる部分の消毒や換気、ソーシャルディスタンスの確保等、感染予防対策を徹底して開催します。
● 発熱や風邪の症状がある方は、参加をご遠慮ください。
● 参加時はマスクのご着用をお願いします。
● 厚生労働省が利用推奨する新型コロナウイルス接触確認アプリ(cococa)を事前にダウンロードしてください。
● エリアにご到着されたら、まずはインフォメーションにお越しいただき、検温や個人情報の連絡先の記載にご協力ください。
● 比較的空いている日時(平日/午前)の来場にご協力ください。

はならあと2020 こあ
キュレーター企画

そして、
And, それはいつか土へと
that will become soil

1 牛島 光太郎 | Koutarou Ushijima
会場:今井まちなみ交流センター「華葦」



1978年福岡県生まれ、松山市在住(2017年-)。2001年、成安造形大学彫刻クラス卒業。京都造形芸術大学大学院芸術環境専攻修了。言葉を用いた作品を制作。日本での活動に加えて、ドイツ、台湾、中国、ニューカレドニアなどで作品を発表。関西国際空港や百貨店の吹き抜け空間やショーウィンドウなど公共空間への大規模な作品設置の他、里山や市街地でのアートプロジェクトを実施。個展、グループ展、多数。2020年4月に著書『一枚物語ちぐはぐな日々のはなし』(アリエスブックス)を出版。

2 黒川 岳 | Gaku Kurokawa
会場:旧米谷家住宅



1994年島根県生まれ、京都府在住。2016年東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業、2018年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。自身が出会った様々なものの音や形、動きを注視し、それらを自らの身体で捉えようとする行為を繰り返す中で生まれる形や動きなどをパフォーマンス・立体・映像・プロジェクト等様々な形式で発表している。

3 山本 聖子 | Seiko Yamamoto
会場:大橋家



1981年大阪府生まれ。2004年大阪芸術大学芸術学部美術学立体的コース卒業。2006年京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻修了。均質的に区画整理されたニュータウン独自の空気や人、生活の在り方への違和感を制作の出発点にしている。近年では海外での滞在経験などから、身体性やアイデンティティについて、「色」をテーマにインスタレーション、映像、写真、彫刻など様々なメディアで制作・発表をしている。

4 たかはし なつき | Natsuki Takahashi
会場:今西長屋A



1971年千葉県生まれ、奈良県在住。1998年東京学芸大学大学院教育研究科彫刻コース修了。奈良県宇陀市室生の森より自ら木を選び出し、広葉樹から針葉樹まで様々な種類の木材で森の精霊や架空の生き物たちを制作。漆と麻布を張り合わせ最後に金箔を施す木心乾漆(もくしんかんじつ)技法を使用し制作。実は人間も自然界の一部であり、人間と自然はもっと近く密接な関係だった記憶が自分のどこか奥深くにある。私たち人間が生きているということは、虫や動物が生きていることと等しく、同じ目線なのだということを感じてきた。自然と一体になって暮らせるような意識を持ち、それを表現することが制作の動機となっている。

5 野村 由香 | Yuka Nomura
会場:今井蘇武橋公園 / 旧西町生活広場



1994年岐阜県生まれ、京都府在住。2019年京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士課程修了。人間の生を大きな循環の一部として、生物のもつ条件や避けられない境遇を受け入れ、日々の選択を行うことに関心がある。料理、食事といった毎日の生活の場面から、身近な物で補う、作る、という工夫を続けることで形成される考え方に着目して表現を行う。

6 川野 直紀 + 柳澤 景子 | Naoki Kawano + Keiko Yanagisawa
会場:今西長屋C



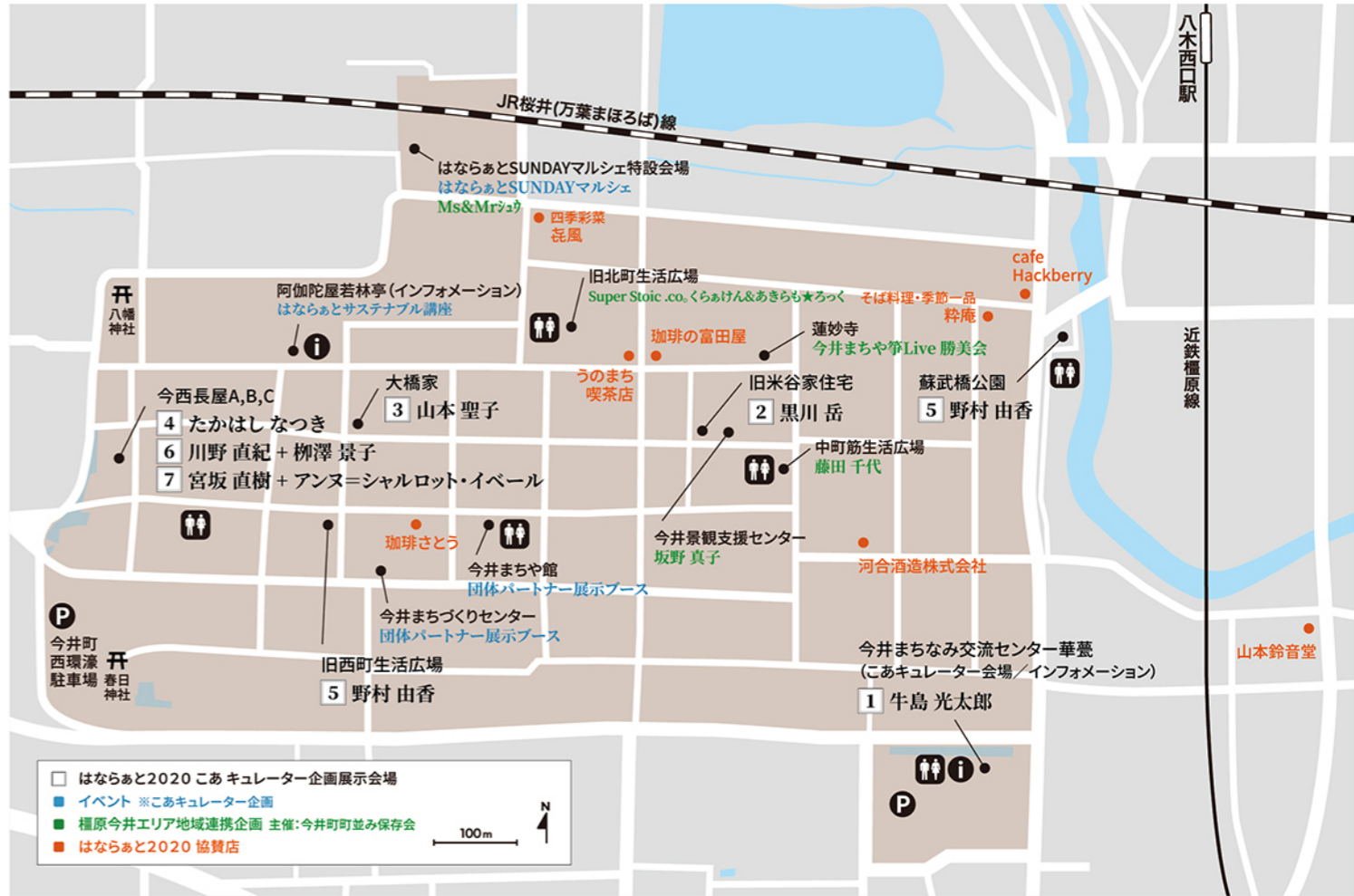
川野 直紀 | Naoki Kawano

1988年熊本県生まれ、パリ在住。2010年福岡大学卒業。2012年ブレイクカレッジオブアート&デザイン(イギリス)卒業。2013年レーベンズボーン・デザイン・アンド・コミュニケーション大学(イギリス)卒業。素材の持つ独特の質感に着想を得て、作品を制作する。様々な素材が用いられる作品は、コラージュやペインティング、平面から立体まで幅広いが、一貫して鑑賞者が強い感情を想起するような表現が意図されている。

柳澤 景子 | Keiko Yanagisawa

1988年長野県生まれ、パリ在住。2011年桜美林大学卒業。2012年ブレイクカレッジオブアート&デザイン(イギリス)卒業。自然から得たインスピレーションを、繊細なペン画で表現する。日本の伝統的な色使いと現代的な着想によって、動き出すような空想の植物を描く。

そして、それはいつか土へと
And, that will become soil



「榎原エリア・今井」
公共交通機関:
近鉄八木西口駅から徒歩10分、JR畝傍駅から徒歩13分、近鉄大和八木駅から徒歩15分
インフォメーション情報:
「阿伽陀屋若林亭」〒634-0812 奈良県橿原市今井町4丁目11-26
「今井まちなみ交流センター華葦」〒634-0812 奈良県橿原市今井町2丁目3-5(最終入場は16:30)
駐車場:
今井まちなみ交流センター華葦駐車場、今井町西環濠駐車場
※インフォメーションでwebアンケートにご協力下さった方に駐車無料券を配布いたします。



《イベント情報》※こあキュレーター企画

「はならあとSUNDAYマルシェ」
はならあと こあ期間中、毎週日曜日に環境に配慮したこだわりのお店が集まります。
日程:2020年10月25日、11月1日、11月8日
時間:11:00-14:00
場所:はならあとSUNDAYマルシェ特設会場

「はならあとサステナブル講座」
はならあと こあ期間中「環境」「食」「自然」などをテーマに持続可能な社会に向けてさまざまな講座を開催します。
日程:会期中の金、土、日、祝 ※事前予約制
時間:10:30-12:30または13:30-15:30
場所:阿伽陀屋若林亭

「団体パートナー展示ブース」
奈良県内で環境問題に取り組む企業や団体のパネル展示を開催します。
日程:はならあと こあ期間中すべて
時間:10:00-17:00
場所:今井まちなみ交流センター、今井まちや館

《地域連携企画》主催:今井町町並み保存会

「榎原今井エリア地域連携企画展」
地域と縁のあるアーティストが個展やパフォーマンスを開催。
日程:はならあと こあ期間中すべて
時間:10:00-17:00
出演作家:坂野真子、藤田千代、Ms&Mrシュウ、Super Stoic .co.くらあけん&あきらも★ろく
場所:今井景観支援センター、中町筋生活広場、旧北町生活広場、今井西環濠広場(今井児童公園横)

「今井まちや館Live 勝美会」
日程:10月24日(土) 時間:10:30~ / 13:30~
場所:蓮妙寺

7 宮坂 直樹 + アンヌ=シャルロット・イヴェール | Naoki Miyasaka + Anne-Charlotte Yver
会場:今西長屋B



宮坂 直樹 | Naoki Miyasaka

1985年千葉県生まれ、現在は京都府/パリで活動。2010年、ブリュッセル王立美術学院修士課程修了。2016年、東京芸術大学大学院美術研究科美術専攻先端芸術表現領域博士課程修了。知覚と思考を含む観照の概念を基に、メディウムを観照的支持体として解釈し、観照によって様々な現れる空間の概念を考察する。また、ジェレミ・ベンサムのパノプティコンやル・コルビュジエのモデュロールなどの機能主義の理論を、他者の知覚を推測する理論へと再解釈する。



アンヌ=シャルロット・イヴェール | Anne-Charlotte Yver

1987年、サン=マンデ生まれ、現在はパリで活動。2011年、パリ国立高等美術学校修士課程修了。秩序と混沌の間で、彼女の制作は無限に継続する。連続的に調整される実験的な構築によって、物質性と空間における容態の変容過程を明示し、彫刻が設置される建築に働きかけることで、動線と知覚を変容する没入型の環境を創造する。

Leaking Point 2020
撮影:Simon Castelli-Kérec 画像提供:Les Tanneries - CAC, Amilly

※写真は展示作品の紹介ではありません。

詳しくは公式webサイトをご覧ください。